

令和5年度
男女共同参画
啓発事業テーマ



女性とスポーツ

問合せ：市民参加推進課

☎982・9458 FAX 981・5392

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は「多様性と調和」をコンセプトに開催され、女性選手の参加割合が過去最高となった史上最もジェンダーバランスの取れた大会でした。また、FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023は「多様な性の在り方」を世界中に発信する大会となりました。

このように、スポーツ界においてジェンダー（※1）平等や女性活躍の場が注目される一方で、社会においてはいまだに多くの課題を抱えているのが現状です。また、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」という観点からも私たちは現状を知り、今できることを考えていくことが大切です。

※1 今の社会の中では、個人の希望や能力に関係なく「性別」によって、「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」というように、生き方や働き方の選択肢、機会が決められてしまうことがあります。このように社会的、文化的なイメージや役割分担により作られた性別を「ジェンダー」と言います。

世界における日本の現状「ジェンダーギャップ指数」

ジェンダーギャップ指数とは平成18年から、スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が毎年公表している世界基準の男女格差を数値化したものです。

教育・経済・健康・政治の4分野で構成され、男性を「1」としたときに、女性がどれくらいになるかを数値化し、女性の指数が「1」に近づくほど男女平等で、男女の格差がない状態を表しています。

日本における令和5年ジェンダーギャップ指数の順位は、前年から後退し、過去最低の結果となりました。先進7カ国中では最下位。また、アジア近隣諸国から見ても、シンガポール（49位）、ベトナム（72位）、韓国（105位）、中国（107位）より下回りました。世界中がジェンダー格差の解消へ取り組みを進めているのに対し、日本はそのスピードに追いつけていません。

特に政治分野では順位が低く、その主な要因は女性の政治参加が少ないことでした。そして、次に低い順位の経済分野で

は、女性管理職が少ないことや男女の賃金格差が課題であることが示されました。

日本は **125** 位 / 146カ国
(前年から 9 ランクダウン)

女性の参画が
進んでいません！



分野別順位

政治 138位
経済 123位
健康 59位
教育 47位

順位	国名	指数
1	アイスランド	0.912
2	ノルウェー	0.879
3	フィンランド	0.863
105	韓国	0.680
107	中国	0.678
125	日本	0.647
146	アフガニスタン	0.405